ようごとグラジルが行会所関係記念教育に 重内救济

式典であいさつする岡崎会長 (左端)



及。「「次の100年に

記念ケーキカットで村上理事長、岡崎会長、久保田氏(前列右から) 参加した。 なければならないといく、人々の生活も支援し う考え方)」と、アリア を作れ」の2つのモッ氏が説いた「珈琲より人 である永田 ンサ移住地先駆者の一人 トーを目標にしてきた会 員が数多くいたことにも 一稠(しげし) モ

肉救済」「珈琲(コーヒー)より人を作れ」のモットーを若い世代に継承で開催され、岡崎会長はあいさつで冒頭の言葉を強調。同会が掲げる「霊典が、17日午前10時からサンパウロ(聖)市リベルダーデ区の文協小講堂 でいきたい」―。ブラジルカ行会(岡崎祐三会長)創立100周年記念式「次の100年に向けて、良い100年と言えるように次世代につない の活動を改めて敬うとともに、1世紀の節目の年を祝った。していく考えを示した。式典会場には満杯となる約250人が出席。先人 日本力行海外協会理事 行会の村上悦榮(えつ 記念式典には、日本力 本からの慶祝団が来伯し英日本力行会理事など日 長、幸脇(さいのわき)一

席。ブラジル側から

て出

領事部長らが来賓として代表、呉屋春美文協会代表、呉屋春美文協会教育文化協会会長、西村 教育文化協会会長、西は、和田忠義アルモニ 田忠義アルモニア

調した。 つないでいきたい」と強 言えるように次世代に向けて、良い100年と

後のさらなる発展を祈念 ともに、伯国力行会の今 100年の節目を祝うと に帰国した経緯を説明。 キシコ、北米を経て日本 ラジルに滞在した後、メ 年に渡伯し、3年余りブ年の一人として1960 事長は、自身も力行会青 力行海外協会の久保田理 いて、祝辞を述べた日本 伯側来賓あいさつに続

立った日本力行会の村上

う」と述べた。

いできたことを嬉しく思

換、留学生〇Bのリカル 日伯間での記念品の交

ド・トモ氏、マルシア・チ

跡と歴史の重さを受け、 及び伯国力行会の歴史を 97年から始まった同会 節目」と位置づけ、18 重な歴史を重ねた大きな 理事長は、同式典を「貴 振り返り、「力行会の足 多くの会員の方々にお会

> その子孫への表彰が行わ つに続き、歴代会長及び

れ、岡崎会長から一人ず

つ表彰状が手渡された。 表彰者を代表して第7

く者にとっては日本から 記で、日本語で記事を書 況の様子だったが、当日 小講堂の会場が満員で盛 の式次第がすべてポ語表 00周年記念式典は文協 プラジルカ行会創立 流れを感じた式典だっ も経つと日本語は廃れて た会であっても、1世紀 ないが、「日本人が作っ 育成はできたのかも知れ が説いたモットーによれ」と永田稠(しげし)氏 いくものだな」と時代の 、後世につながる人材

「金星

確認するのに少々、閉口 の漢字の名前と肩書きを の慶祝団や伯側来賓など した。「珈琲より人を作 ド・スールで獲れた柑橘 Cの一行が、ピラール・ 案内に来社したAPP

らが公募した中から選ん 市の日本祭りで浦田さん 006年頃のサンパウロ とができないそうだ。 録のため、勝手に使うこ 実農業協同組合連合会 (熊本果実連)の商標登 金星」という名称は、2

ことを説明。「これから 人を作れ』の2つのモッ い」と語った。 トーを心のどこかに持ち も『霊肉救済』『珈琲より ながら生活していきた

ので、何を話していなかった 辞を用意していなかった

(87)が謝辞を述べ、「謝の永田久氏

後に1210人が渡伯 員は戦前に506人、戦 のやら」とユーモアを交 と、計約1900人が 弟約200人を含める し、訪日した伯国会員子 日 に続き、日本力行会の幸 た。記念のケーキカット に移して祝賀会が行われ 撮影の後、会場を展示室

「金星」は通称デコポン という名称は熊本県果品種なのだが、デコポン 差し入れしてくれた。 で知られた果物と同じ (きんせい)」 といった基準を満たさ だもの。 らいしか「金星」と名 い生産したものの30~ 「ビギポン」として販 ので、それ以外のもの も同じ基準を満たした 13%、クエン酸1%以 れないというほど、非 しているという。だい ず、それ以下の品質の いとデコポンと名乗 い)」と呼ばれる。「金 のは「不知火 デコポンは糖 した

られた。 頃から再び小講堂で記 万歳」と杯が3回、 り、「ビーバ、サウー アトラクションが実

祝賀会の後、午後の

一脇理事が乾杯の音頭を取 出席者全員による記念 披露された。 平マリコ氏による歌 ショーと、弓場バレ ループ民による民謡 会による琴の演奏、 生田流正派ブラジル琴

それぞれの思いを抱いて 人だった」と振りなった」と振りなった。 の気骨があり、 り返る。

力行会100年台

一代会長(1992年~2

一本力行会で訓練を行った

「一つてハたが、耶字紙こ間、農業生産活動などを 力行会青年の一人として 1960年、当時26歳で **怜男さん**(83、長野)は 海外協会理事長の久保田 渡伯。 サントスで1年 サンパウロ市在住の後藤 渡伯前に東京で行われた 槙夫さん (79、愛知) は、 同じく60年に渡伯した

団と伯国力行会会員な 一関係者ら日本からの慶

念式典には、日本力行 力行会創立100周年

日に行われたブラジ

ことを披露した日本力行

式典の祝辞でも自身の

として渡り、メキシコで

生活したこともあるとい

合わせて約250人が

こまど州女侍などとの

う。

記念式典に出席した人々

寅を聴いた覚えがあるそ 永田稠 (しげし) 氏の講 会青年の募集を 住協会での力行

渡伯前は日本

愛知県の海外移 気持ちがあり、 藤さんは、海外 の大手運送会社 に出たいという で働いていた後